

巨大建造物の歴史的遺産。 佐世保と対馬

工学部教授

岡林 隆敏

Okabayashi Takatoshi

長崎県はわが国の西端に位置し、国防衛のために佐世保鎮守府が設置され、艦艇建造と修理を目的とした海軍工廠が併設された。さらに、前線施設として対馬に竹敷要港部が建設された。佐世保市には近代軍水道、鎮守府の赤煉瓦倉庫群、海軍工廠の造船施設群、通信施設としての針尾無線塔などがある。他方、対馬市には、対馬要塞の各種の砲台、竹敷要港部跡、久須保水道（万閑運河）など、戦前の日本を代表する巨大土木建造物が残されている。



建設中の岡本第2貯水池(1901年(明治34)頃)*



建設中の山の田ダム堤体基礎(1906年(明治39)頃)*



現在の岡本第2貯水池



山の田水道施設(ダムと濾過池)



吉村長策**



堺木減圧弁



転石ダム



菰田ダム

* 佐世保市教育委員会所蔵

** 土木人物事典(アテネ書房)

(1) 佐世保軍水道

近代化の軌跡・佐世保市の水道遺産

海軍の施設では、艦艇の蒸気機関兵員の飲料水、食堂、病院などに大量の水を使用する。1889年(明治22)4月に佐世保鎮守府が設置されると、同年12月に創設水道が完成した。佐世保市には第1次拡張工事(1901年(明治34)完成)から第4次拡張工事(1940年(昭和15)完成)の間に建設された多彩な水道施設群が残されている。岡本貯水池(明治34)、山の田貯水池と水道施設(明治41)、転石貯水池(昭和3)、菰田貯水池(昭和15)である。円形をした岡本貯水池の素朴なダムから、堤長387.7mにおよぶ巨大な菰田貯水池のダムに至る水道技術の進展の軌跡を、これらの近代化遺産を通して見ることが出来る。岡本貯水池は標高が高いので、導水のために途中に減圧弁を設置した。その一つが写真の堺木減圧弁である。

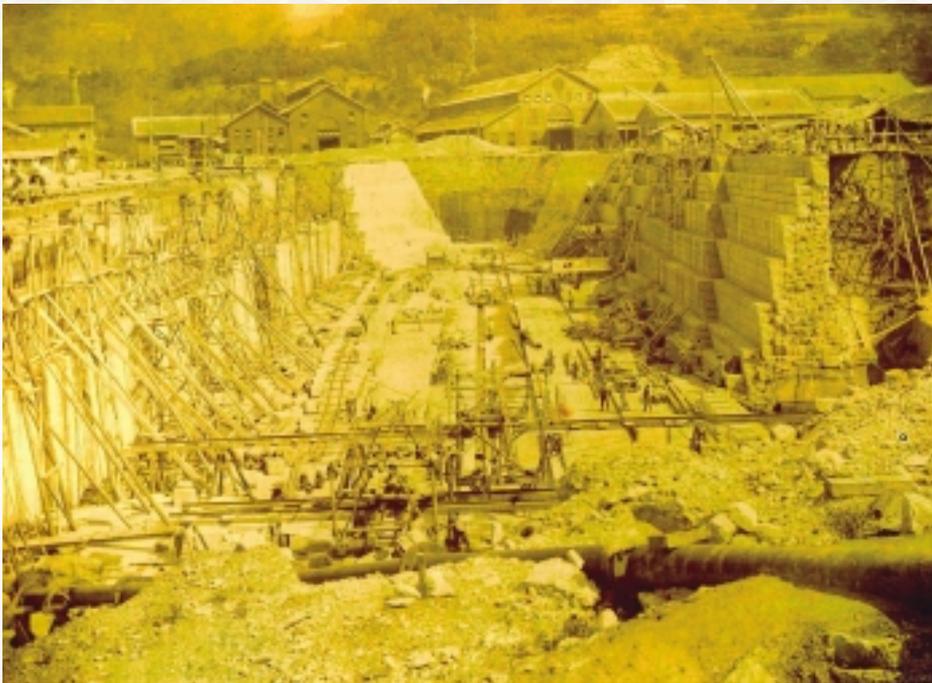
吉村長策と佐世保の近代化遺産

吉村長策は、1860年(万延元)大阪府に生まれ、工部大学校土木科を卒業した後、1886年(明治19)に長崎県技師として招聘された。長崎市では、下水道、港湾事業と共に、日本で最初の水道ダム(本河内高部貯水池)を完成させた。

1900年(明治33)、佐世保鎮守府建設部建築科長となり、水道拡張工事、海軍施設工事の指導・監督を行った。

1920年(大正9)、海軍省建築局長に就任し、1926年(大正15)、土木学会会長を務めている。他に、大阪、神戸、門司、小倉、福岡、長野などの水道新設工事を指導した。

若い時代に水道建設や巨大土木工事を行った吉村長策は、佐世保市にある墓地で眠っている。



建設中の第1船梁(1895年(明治28)頃)〔佐世保市教育委員会蔵〕



佐世保海軍工廠地図(防衛研究所図書館蔵)



第1船梁(現:第5ドック)



赤煉瓦倉庫群



武庫預兵器庫



立神係船池全景



立神係船池岸壁



250トンジャイアントクレーン



針尾送信所無線塔

佐世保海軍工廠と巨大構造物

第1船梁(ドック)の建設が1894年明治27)に始まり、1901年(明治34)に完成した。その後、1941年(昭和16)までに、合計7船梁が建設された。第7船梁は全長343.8mある。佐世保鎮守府建築科長の吉村長策は艦艇の艤装・修理のための立神係船池を立案した。工事は1906年(明治39)着手、11年かけて1916年(大正5)に完成した。係船池の横断は56.5mある巨大な施設で、明治年間に行われた海軍最大の土木工事であった。係船池の艦艇艤装用に250トンジャイアントクレーン(英国製)が1913年(大正2)に設置された。

高さ135mの3本の無線塔がある。針尾送信所と無線塔である。1922年(大正11)に完成、当時の鉄筋コンクリートの技術が集約された特異な構造物である。

佐世保海軍鎮守府は、1889年(明治22)に開庁し、翌年、構内に造船部が設置された。佐世保鎮守府は、海軍基地の中枢施設・倉庫・兵舎などの建築群の区域と、艦艇の建設と修理のための造船施設群の区域から構成されている。

明治期の建築物群は、現在、米軍基地内にあるので近寄れないが、外から見るだけでも膨大な赤煉瓦倉庫群が保存されている。一部を赤煉瓦倉庫群と武庫預兵器庫の写真で示した。旧海軍工廠の施設は、海上自衛隊と佐世保重工業(株)が継承しており、造船関連工場群、巨大な造船関連施設を見ることができ、これらの施設は、佐世保市の日本を代表する近代化遺産群となっている。

(2) 佐世保鎮守府と海軍工廠の構造物群

佐世保鎮守府と赤煉瓦倉庫群



久須保水道と竣工直後の久須保橋 (1901年(明治34)頃)



供用中の久須保水道と久須保橋



現在の万閑運河(旧久須保水道)



竹敷要港部図面(防衛研究所図書館所蔵)



竹敷軍港の岸壁



竹敷軍港の防潮堤



竹敷軍港の修理用ドック跡



上見坂保塁跡



豊砲台地下遺構

久須保水道(万閑運河)は対馬市美津島町にあり、久須保湾と浅茅湾の間に1900年(明治33)に完成した水路(運河)である。旧海軍が水雷艇を常時運行可能にするために建設したもので、総延長300m、幅22m、水深3mであった。明治期における巨大軍事事工事であった。その後改良されて現在に至っている。水路の掘削が終わると、水路上に橋長約100m、幅3.6m、水面上36mの久須保橋が架設された。高橋脚に側径間が架かり、中央部は逆トラスの構造になっている。掲載のセピアに変色した写真は、この橋梁の開通式のものである。完成した運河から巨大な足場を立ち上げ、橋梁を架設した当時の施工法を見ることができる。

久須保水道開削と久須保橋

全島要塞化された対馬では、第1期(明治中期)から第3期(大正・昭和初期)にかけて建設された、兵舎・上見坂保塁跡(など)や砲台跡が残されている。中でも、明治中期の砲台群や地下要塞化した豊砲台(昭和9年完成)が特異な施設である。

明治維新以降、特に、日清・日露戦争のために、現対馬市美津島町竹敷に海軍要港部が設置された。1889年(明治22)水雷敷設部が設置され、1896年(明治29)に海軍要港部に拡張され、1912年(大正元)まで続いた。要港部は鎮守府に準ずる軍事施設であり、当時の軍港の大規模な遺構(岸壁、防潮堤、修理用ドックなど)が残されている。

竹敷要港部跡と砲台遺構

(3) 対馬の近代化軍事遺構